

い い なおすけ 大老井伊直弼の家筋

徳川幕府の大老と言えは井伊掃部頭直弼(いいかものかみなおすけ)です。幕末に大老として登場し、日米通商条約を勅許(天皇の許可)なしで調印し、将軍継嗣を紀州徳川家の慶福(よしとみ)に決めました。

反対派の水戸藩等を弾圧するために安政の大獄を断行しました。そして尊王攘夷を標榜する水戸の浪士によって桜田門外で襲撃され殺されました。

直弼の大老就任期間は安政5年(1858)4月から殺される安政7年(1860)3月までの2年弱でした。

この間で強権を発動し、一躍歴史上の人物になりました。更に1963年NHKの第1回大河ドラマ「花の生涯」で井伊直弼が取り上げられ、以後日本人で知らない人はいなくなったと言えるでしょう。

しかし井伊直弼のイメージはつかめたとしてもそもそも井伊家とはどんな家筋のお家なのか知る人は少なかったと思います。

そこに又2017年にNHK大河ドラマ「女城主 直虎」が放映され井伊家のルーツがドラマ化されました。

このお話がどこまで信憑性があるのかどうかは後述することになりますが、まずは「女城主 直虎」でも直虎(なおとら)の後の井伊家の当主であります直政(なおまさ)のところから話を始めたいと思います。

徳川家康に仕えるようになってからの直政の活躍は史実として残っています。

天正3年(1575)15歳の時に浜松で家康に見いだされ、小姓として仕えます。

その時当時、すでに東海の雄今川が織田信長によって滅ぼされ(1560年)家康は三河(みかわ 愛知県の東側)全部と遠江(とおとうみ 静岡県の西側)の大半を支配下におさめており、主城を三河の岡崎から遠江の浜松城に移していました。

そして天正3年は織田信長と家康とが長篠で武田勝頼を撃破した時です。信長の天下が見えて来た時です。

直政は、天正9年に武田勝頼との戦で大手柄を立てその後次から次へと手柄を立て、とんとん拍子で出世します。

天正10年に、武田勝頼を滅ぼした信長は京都本能寺で明智光秀に謀殺されます。その時、直政は堺にいた家康を無事三河に脱出させます。

その後徳川と北条との和睦交渉で使者にたつて交渉を成功させます。

これ等によって侍大将となり、4万石を与えられます。

天正12（1584）年には家康と豊臣秀吉との小牧長久手の戦いでは先陣で手柄を、そして秀吉天下の下での天正18年（1591）の秀吉の北条征伐では家康の下で転戦して手柄。

この頃、徳川の最強の武将として酒井忠次、本多忠勝、榊原康政とともに徳川四天王の一人に数えられます。

これ等の功勞で家康が関東に移った時に。上野箕輪（みのわ）で12万石を与えられます。譜代最高の石高です。

秀吉没後の慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いでも抜群の手柄で近江の佐和山城（石田三成居城）をもらい6万石の加恩で上野領を合わせ18万石の領主になりました。

長政は関ヶ原の戦いの折の戦傷が元で1602年に亡くなります。

跡目は長男の直勝です。しかし病弱で大坂の陣（1615年）に出陣できないことから、同い年の次男直孝（なおたか 1590～1659）が井伊家の総大将として出陣し、大活躍しました。戦後兄に代わり当主交代が家康から指示されました。直孝は若い時から家康後継の秀忠に仕えていて、秀忠の親任も厚かったのです。

この直孝が大坂の陣（豊臣家滅亡）での活躍で5万石の加恩で近江（彦根）で20万石（兄直勝は別途上野安中で3万石）

その後三代家光の側近としても親任厚く更に四代家綱の後見役として幕府を仕切りました。

当時大老という役名はありませんでしたが、大老格で大政に参与しました。

その後も加恩あり、最終的には35万石の藩主となりました。

ここで井伊家は徳川家譜代筆頭の家格と称されるようになりました。この家格は幕末まで変わりません。

もちろん御三家の方が家格は上ですが、幕府の政治に参与は出来ません。

その後大老職が設けられ、井伊家は延べ5人の大老を出します。大老職は常置の役職ではなく幕府264年間で置かれたのは延べで56年間、就任大名は5家（土井家・酒井讃岐守家、酒井雅樂頭家・酒井家・堀田家・井伊家）10人のみで、内井伊家は5人（内一人は2回）出しています。

どうゆう時に大老が就任するのかはつきりしませんが、当初は長く老中を勤めた後の功勞として推挙されたようです。

但し井伊直弼（なおすけ）は違います。その政治手腕を乞われて就任し、幕府の総裁として全権をふるいます。

さて家康に初めて仕えた井伊直政の井伊家とどんな家筋かです。「井伊家直虎時代の系図（通説）」を添付しますのでご覧ください。

井伊家は遠江国（とおとうみ）の井伊谷（いいのや 浜松市北区）に平安時代末には存在しており、鎌倉時代に井伊谷の地頭であったことは確かです。

南北朝時代に南朝に加担して敗北し、家運は衰退、更に戦国初期には遠江での今川氏と斯波氏（しば）の抗争では斯波氏に味方して敗退し、やがて今川の被官（外様の家来）となります。

ここまでは史実と言えるのですが、この後家康に仕えた直政（なおまさ）当時のことがはっきりしません。

先ず従来説即ち NHK 大河ドラマの筋立てです。

お話仕立てですがこれまでの通説によっています。

家康に仕えた直政のお父さん直親（なおちか）は、井伊家本家の女城主直虎の元許嫁で、直虎のお爺さんの兄弟の子です。

直親は本家の直虎と結婚して井伊本家の当主（婿養子）になることになっていましたが、結局直虎とは結婚せず井伊家本家の当主となって、別の女と結婚して生まれたのが直政です。

何故このような事情になったかです。

直親の本家への婿養子（娘直虎）が決まった後に、直親の実父が今川に謀反を起こそうとしていると家老が今川（氏親）に讒訴したため、実父は今川に殺され、実子の直親は出奔せざるを得なくなりました。

その後直親は許され、井伊家本家の当主になれたのですが、直虎がすでに出家して尼になっていたため、別の女と結婚して直政が生まれたと言うことです。

直虎の父親の直盛が桶狭間で戦死した後、直親は当主になったのですが、お父さんと同じように家老に今川への謀反を讒言され直親は殺されます。（1565年 永禄5年）

息子の直政（3歳）は今川に狙われたため出奔します。直政はお爺さんも、お父さんも今川に殺されます。

これで井伊家の当主がいなくなり、やむを得ず既に出家していた直虎（次郎法師）が女ながらに城主（領主・井伊家当主）として起用されたのです。

直虎の城主時代は、1565年から家康が井伊谷を支配下するまでの1569年の4年位となります。

直政は今川から逃げ、家来に保護され、お母さんの再婚先の松下清景の養子となり、関係者の計らいで家康と対面がかない、家来にしてもらうのです。

さてこれとは別に井伊家が幕府に提出した家系図（寛政重修諸家譜）には女城主直虎はなんと報告されているかです。

「直盛の娘一 直親と婚約したが、実父直満が殺され、直親は出奔して数年帰らなかったの尼となり、次郎法師と号した」

これだけで直虎が城主（井伊家当主）になったことは記述されていません。

このことで直虎が井伊家当主でなかったと確定は出来ません。

井伊家は直政の後に長男直勝が当主となりその後が弟の直孝が史実です。しかし家系図での報告では直勝は当主にしていません。

家系図は必ずしも正しくありません。

さて最後に昨年、井伊家家老の木俣家伝来の守安公（二代目家老）書記かきうつす「雑秘説写記」が公表され、解説記事が出ました。（現在、原本やその写しは関係者しか見られません）

その解説によりますと、

「当主の井伊直盛に次郎法師（直虎）と言う子（男も女も）はいない。直盛が永禄3年（1560）に桶狭間で今川義元と共に戦死した後、井伊谷領は今川の直轄地となった。その後永禄8年（1565）に今川のご一家衆の関口氏経の息子である幼名次郎法師（男）が養子として井伊家に入った。成人しての名が直虎。直政（家康に仕える）の父親の直親は井伊家の庶流の出である。」

このように従来女城主直虎を真っ向から否定し、直虎は今川から送り込まれた養子（男）だとする史料が出てきました。

結論は今後の学者の研究に待つこととなります。

ただ、寛政重修諸家譜では次郎法師（直虎）は実在の人（当主の娘）ですが、当主（城主）になっていません。

井伊家の菩提寺の龍潭寺（りょうたんじ）への寄進状や徳政令の書状で直虎が当主であったことは確認されます。

NHK大河ドラマに水を差したでしょうか。まあもう放映が終わっていますからお許し下さい。

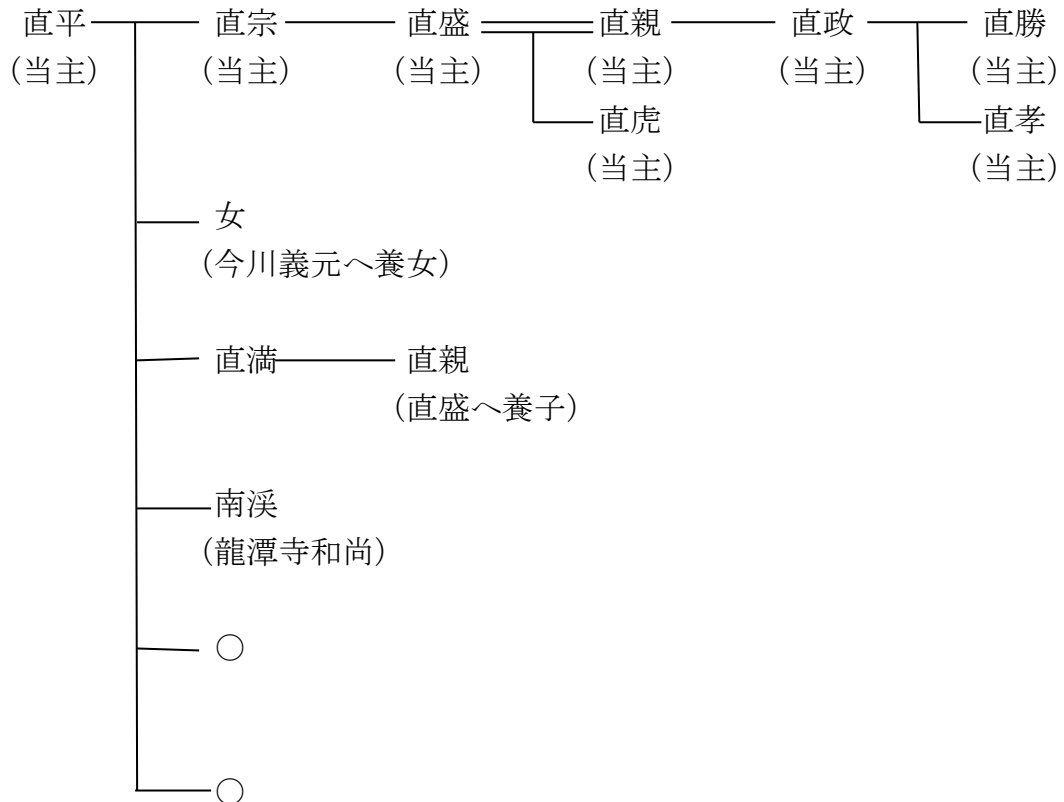
それから井伊家は譜代筆頭の家格で、三河譜代と称していますが、厳密には誇り高い三河（岡崎）譜代とは言えません。家康が主城を遠江の浜松に移してからの家来だからです。

以上

2018年8月11日

梅 一声

井伊家直虎時代の系図（通説）



直平：直虎の曾祖父、1564年戦死

直盛：直虎の父、1560年桶狭間で戦死

直満：今川に殺される。直親の父

直親：直盛養子、直虎の許嫁、直虎とは結婚せず、今川に殺される

直虎：直盛の子（女）、直親亡き後の当主（井伊谷城主）

直政：直親の息子、徳川家康に仕える（四天王）